



口本無線先端技術センタ

review

選 評

ーの研究開発拠点として長野市郊外に新設さ

当施設は、一〇〇年の歴史を持つ通信機器メ

引かれる。よく見ると手摺り壁と軒天をアルミパ 張り出したバルコニーで構成された外観に目を 業にとっては画期的なイノベーションである。 回避と地域活性化までをも目指した、まさに企 ッスが幾重にもガラスを突き抜けてそのまま内 ンチングメタルで覆ったホモジニアスな半 透明のマ を高めると共に、一極集中による災害リスクの することにより研究者の感受性とモチベー 下にあった既存施設を、自然豊かな地方に移設 れた。事業構造改革の一環として、今まで東京都 まずは建物にアクセスすると四周にランダムに ・ション

彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2018年で59回を数えます。

部空間に入り込んでいる。

現しているのである。 互い違いに重なり合い、それを階段が螺旋状に 設計者の形態操作によるある種の装飾的要素 るのである。バルコニーのランダムなデザインも、 で一つの半透明の開放的な実験空間となって ム空間が外部のバルコニー空間と繋がって、全体 用ならではの構成ではあるが、各フロア間のスペ つなぐワンルー に設置したからこその開放的な研究施設を実 ら外部を拒絶するかのように閉鎖的になりが 付加されている。とかくセキュリティや機密性か と捉われがちであるが、実は無線の屋外実験用 ちな都会の研究施設とは異なり、ここでは地方 て、それに避難動線、消防動線としての機能も として仰角を開くためにずらして設置されてい ションの核として機能している。このワンル スは階段と一体の中間領域となりコミュニケ 上方に伸びるワンルー 内部の執務スペースは、各フロア中央に吹抜が ム空間である。これは自社ビル使 ムの弱点である空調シス



日射遮蔽、避難動線を考慮した配置 BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築 物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表



《2018年 第59回 BCS賞受賞作品》太田市美術館・図書館/高知県立高知城歴史博物館/コープ共済ブラザ/新豊洲Brillia ランニングスタジアム/すみだ北 ム 吹田 / 羽田クロノゲート / 益子町地域振典拠点施設 「道の駅ましこ」 / [特別賞] 名駅一丁目1番計画 (JRゲートタワー、JPタワー名古屋)

吹抜上部に換気口を兼ねたトップライトを設置

し、チムニー効果を利用した各階での自然換気も

域空調をローコストで実現している。また、中央 チングパネルの開口率の制御により快適な居住 調システム」を採用、バルコニーから連続したパン テムにおいても、「天井一体型対流・輻射併用空

可能となっている。



日本無線株式会社 取締役常務執行役員 長野事業所長

横井則明 Noriaki Yokoi

開かれた執務空間から新たな成長戦略を発信

事業構造改革・意識改革・風土改革の柱として建設した先端技術センターも、竣工から 早5年目を迎えようとしています。この間、東京都三鷹市から長野県長野市への移転も落ち 着き、良好な環境の中で事業に邁進しております。現在は建物のコンセプトである開かれた 執務空間を有効に活用しながら、各部門やグループ会社が連携しOne-JRCを掲げ、新たな 成長戦略を推進しております。意識・風土改革には時間が掛かりますが、徐々にその成果は 出てきていると感じます。本賞の受賞を誇りに思い、末永く弊社のシンボルとして存在するよ う、維持管理に努めてまいります。



株式会社日建設計 設計部門 ダイレクター

河野信 Shin Kawano

屋内外を立体的に連続させたワンルームの研究施設

無線通信機器を研究・開発するこの研究施設は、多方向にずれて張り出したバルコニー が特徴的な外観を印象付けています。しかしながら、この表現は単に意匠上の理由ではな く、建屋内部で行われる活動の表出として計画されました。フロアーを貫くらせん状の吹き 抜けが連続的に配置され、結果、研究施設という閉じた箱を解体・再構築することで、屋内 外が立体的に連続し、開放感と一体感のある風通しの良い研究開発環境を生み出してい ます。空間が多様性を持つことで、研究者の働き方に自由度が増し、知的生産性の向上、コ ミュニケーションの活性化、研究スタイルの革新、情報発信の強化に寄与しています。

これら内部空間から外部に発信されるアクティビティーが、企業の事業をアピールし、地 域・社会とをつなげる日本無線様の業務の可能性を広げることを期待します。



大成建設株式会社 北信越支店建築部 作業所長

入澤隆男 Takao Irisawa

三位一体で形を造ること

三位一体とはこのことだと実感できた施工案件でした。建築主の要求事項と設計の要求 性能と施工の要求精度、これらをそれぞれの立場で互いに理解して造り上げた建物であり ました。現地でのモックアップ作成、実証実験、ぶれることの無い、最終目的を見据え試行錯 誤をした時期もありましたが、地下無しの鉄骨6階建屋を短工期で仕上げた専門工事業者 の力量並びに所員の強い気持ちにも感動させられました。基礎配筋時期に大雪に見舞わ れたこと、構内に咲く桜の下での会合、これらも今では良い思い出となり、地図に残る建物、 更に記憶にも残る良い仕事でした。











日本無線先端技術センター 計画概要

- ●建築主 日本無線(株) ●設計者 (株)日建設計
- ●施工者 大成建設(株)
- ●所在地 長野県長野市稲里町 下氷鉋1163
- ●竣工日 2014年12月5日
- ●敷地面積 9,955㎡
- ●建築面積 2,816㎡
- ●延床面積 13,276㎡
- ●階数 地上7階、塔屋1階
- 鉄骨造

常想像しうるコストの約二/三で完成させてい 位一体で取り組んで来たからこそ成し得たプロ 築主・設計者・施工者が目的意識を る。これは構想・設計・建設プロセスにおいて、建 コストについても地下 を設けず七・二片× やバランスの良いブレ さと建設コストの低さである。ロングスパン空間 最後に特筆すべきは、施工における工期の短 り、その成果は称賛に値するもの なし・直接基礎とはいえ通 スの配置により鉄骨量 共有

[選考委員] 山本圭介・

山本茂義・

41 | ACe 2019.09